

安心施策に係る具体的な方策(案)について 4

施策の方向性	
4 児童生徒及び教員が、障害のある方とのふれあいを通して、障害に対する理解を深め、偏見や差別のない共に生きる地域社会をつくる人材となるよう支援する。	
具体的な方策	説明
<山口県自閉症児者親の会宇部分会> ・民間の研修会や体験教室など	・特に教員は年間の必須の研修に組み込み、本人の好意ではなく、参加することによって単位が取得できる仕組みとする
<特定非営利活動法人むつみ会> ・出会い、ふれあいの場の設定	・精神障害は「病気」の一つということを理解してもらい、治療を通して、普通に社会生活を営めるということを知ってもらう
<特定非営利活動法人おひさま生活塾> ・学校の中で発達障害についての講義等を行い理解を深めていくことが望ましい。子ども達への理解が一番欲しい	・子ども達には発達障害の特性などが分かるDVD等映像で理解してもらおう方が早いと思う。言葉だけではなかなか難しいのではないか
<宇部市聴覚障害者福祉協会> ・小、中、高等学校など教育機関において、聴覚障害者ほか継続的に各種障害の理解につながる講座を開催する。時間や内容は問わない。また、特定の障害にこだわるのではなく、様々な障害があることを、教員を含めて子どもたちに知ってもらい、理解を促すことが大切。	・学校によっては、積極的、継続的に障害理解の講座を開催しているが、そうでない学校もあるように聞き、学校による温度差を感じる。子どもへの障害理解の教育は、障害者差別や偏見をしない、させない大人に育てるためにも重要。例えば、小学校で4年生時に必ず障害理解の勉強をする時間を設ければ、在校中に全児童が必ず1回は障害を学ぶことになる。また、将来のよき支援者を育てるために、高校のJRCなどで、クラブ活動として障害理解の講話や講座を取り入れることもよい。

施策の方向性

4 児童生徒及び教員が、障害のある方とのふれあいを通して、障害に対する理解を深め、偏見や差別のない共に生きる地域社会をつくる人材となるよう支援する。

具体的な方策	説明
<p><在宅障害児者と家族を支援する会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の体験に勝るものはないと思う。「総合支援学校って何」という子どもたちにぜひ行って欲しい。近隣の学校だけでなく、市内の子ども達、皆に一度足を運んでほしい。なお、事前・事後指導をしっかりとすることが必要と思う。 ・小学校の福祉教育に力を入れてほしいと思っていたので、いい事業内容だと思う。教員研修にも力を入れて欲しい。 ・『児童生徒及び教員に障害に対する…』は将来を見据えた対応として良好と思いますが、現在困っている人も多く、警察官や官庁の方にも理解していただけるような対策を考えて頂きたい。 ・成人の障害者に直接メリットのある事業として、何らかの事件に巻き込まれた時、警察や関係者とすみやかに連絡を取り、障害者一人を追いつめないための何らかの手段とか、健康維持のための保護者がいなくても利用できるスポーツ、運動施設などがあればよいのにと考えています。 ・もう一度考えてもらいたい 	
<p><宇部すみれ会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者(先生)の積極的な障害に対する学習と質の向上と人材確保 ・計画的な障害に対しての学習の機会と機関の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供に接する大人の態度は大きな影響を与える。ちょっとした不用意な態度はいじめに直結していると思って行動しなければならない。 ・障害に対しての理解を深めることにより、他の子の発達にも良い影響を及ぼし、また学習運営もうまくいくと考えられる。 ・共に成長することの大切さから、将来地域社会での生活に望みが生まれると考える